

### 3 一般の数ベクトルの解答例

演習 3.1 と演習 3.2 は結果のみ書いておきます.

演習 3.1 (1) 線形独立 (2) 線形従属 (3) 線形従属 (4) 線形独立

演習 3.2 (1) 線形従属 (2) 線形従属 (3) 線形従属 (4) 線形独立

演習 3.3 (1)  $\mathbf{a}_1 \neq \mathbf{0}$ ,  $\mathbf{a}_2 = \mathbf{0}$  のときにそうなる. 実際,  $c_1 = 0$ ,  $c_2 = 1$  とすれば  $c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 = \mathbf{0}$  となるので  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$  は線形従属であるが,  $\mathbf{a}_2$  のスカラー倍はすべて  $\mathbf{0}$  だから  $\mathbf{a}_1$  と一致するはずがない.

(2) ( $\Leftarrow$ )  $\mathbf{a}_1 = c\mathbf{a}_2$  ( $c \in K$ ) のとき,  $c_1 = 1$ ,  $c_2 = -c$  とすれば  $c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 = \mathbf{0}$ . また,  $\mathbf{a}_2 = c\mathbf{a}_1$  ( $c \in K$ ) のときは  $c_1 = -c$ ,  $c_2 = 1$  とすれば  $c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 = \mathbf{0}$ . いずれにしても,  $(c_1, c_2) \neq (0, 0)$  なるスカラー  $c_1, c_2$  について  $c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 = \mathbf{0}$  が成り立つため,  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$  は線形従属である.

( $\Rightarrow$ )  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$  が線形従属のとき,  $(c_1, c_2) \neq (0, 0)$  なる  $c_1, c_2 \in K$  が存在して  $c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 = \mathbf{0}$  が成り立つ.  $c_1 \neq 0$  のとき,  $c = -c_2/c_1$  とすれば  $\mathbf{a}_1 = c\mathbf{a}_2$  となる.  $c_1 = 0$  (このとき  $c_2 \neq 0$ ) のときは,  $c = 0$  ( $= -c_1/c_2$ ) とすれば  $\mathbf{a}_2 = c\mathbf{a}_1$  となる.

(3) (a') が成立しない  $\Leftrightarrow \mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_m$  のうちある 2 つが線形従属, である. これがさらに (b') と同値であることが (2) により従う.

(4) 例えば, 演習 3.1 (2)(3), 演習 3.2 (1)(2)(3) はそのような例になっている.

演習 3.4  $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_m$  は線形従属なので, ある定数の組  $b_1, \dots, b_m \in K$  が存在して,

$$b_1\mathbf{a}_1 + \dots + b_m\mathbf{a}_m = \mathbf{0}, \quad (b_1, \dots, b_m) \neq (0, \dots, 0).$$

すると,  $(b_1, \dots, b_m) \neq (0, \dots, 0)$  だから, ある自然数  $i$  ( $1 \leq i \leq m$ ) が存在して  $b_i \neq 0$  となる. そこで,  $c_j = -\frac{b_j}{b_i}$  ( $j = 1, \dots, m, j \neq i$ ) とおけば, 上記の式により,

$$\mathbf{a}_i = c_1\mathbf{a}_1 + \dots + c_{i-1}\mathbf{a}_{i-1} + c_{i+1}\mathbf{a}_{i+1} + \dots + c_m\mathbf{a}_m.$$